

7-13		主題	食べたい！飲みたい！叶えたい！	
経口摂取		副題	多職種でみる経口摂取へのこだわり	
口腔ケア				
研究期間	6ヶ月	事業所	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム六月	
発表者：星野 龍一（ほしの りゅういち）			アドバイザー：	
共同研究者：関口 智美（せきぐち さとみ）			福見 明美（ふくみ はるみ）	
電話	03-5242-0303	メール	rokugastu@seifuukai.or.jp	
FAX	03-5242-0306	URL	http://www.seifuukai.or.jp	

今回発表の事業所やサービスの紹介	特別養護老人ホーム六月は、定員50名1フロアの特養です。併設には短期入所、デイサービス、ヘルパーステーション、ケアマネ、包括の他、ケアハウスがあり、自立した高齢者から、要介護高齢者まで幅広くご利用頂いている施設です。
------------------	--

《研究前の状況と課題》
<p>食べる事が大好きだったご利用者が、嚥下状態の低下から通常の食事を摂取することが困難になった。なんとかして食べさせてあげたいという思いがある反面、食事中に口腔内に食べ物が残っている状態でいびきをかいて寝てしまう現状があった。</p> <p>「食べてもらいたい」、「でも・・・」職員一人一人の様々な思いが交差し、ご利用者にとって食事とは・・・考えさせられた。</p> <p>一人のご利用者への思いが、きっかけになり安全に楽しく、おいしい食事を摂って頂くにはどうしたらよいかガ課題となった。</p>

《研究の目標と期待する成果》
<p>食事をするとむせる、食事が減少している何が原因なの？と思われるご利用者の状態に合わせた食事の内容や援助方法の工夫ができるようになることを目標に、医療的な助言を受けられる体制作りと、提供する食事や援助方法の工夫に取り組んだ。</p>

《具体的な取り組みの内容》

【介護・看護職の立場から】

- ① 嚥下機能や口腔ケアの知識の習得
 - ・外部研修への参加と内部研修の企画と実施
- ② ご利用者の状態を理解
 - ・訪問歯科による口腔内検診の実施。
 - ・歯科医師より、状態に合わせた口腔ケアの指導。
 - ・嚥下内視鏡検査の実施。
- ③ 安全な援助への取り組み
 - ・歯科医の指導の下、援助の時間や離床時の姿勢などを工夫した。
 - ・利用者の状況に合わせたトロミの付け方を検討した(トロミ剤の種類、割合と濃度等)。

【栄養マネジメントの立場から】

- ① 食事内容の検討
 - ・安全な食事摂取の為に、短時間に確実に摂取できる量や形態の検討を行った。
 - ・血液検査の結果や体重の変化から、効率よく栄養を摂っていただくを得ないご利用者に、高栄養食品を導入し提供した。
- ② 食事形態の研究・提供
 - ・咀嚼、嚥下状態が低下したご利用者にも安全に楽しく召しあがっていただけるよう、形態の工夫を行った。

《取り組みの結果と評価》

- ① 嚥下機能や口腔ケア等の知識と技術を習得していく中で、食べるという当たり前の動作を支援していくことの難しさに改めて気付かされた。
- ② ご利用者の状況を正確に理解することで、食事援助における個別的な対応ができた。
- ③ 行事食の際も、常食と同じ見た目、食感に近づけるよう工夫することで、ご利用者みんなが同じメニューを楽しめた。

《まとめ》

今回の取り組みを通じて、口腔ケアがいかに食事と密接に関係しているかを実感した。経口摂取を継続する為の口腔ケアは、必要になってからではなく、予防的に実施していく必要がある。口から食べるということは、単に栄養摂取という面だけではなく、おいしく楽しく食べるということで、生きる喜びにもつながり、利用者の尊厳を守ることでもあると感じた。安全や栄養面だけでなく、たのしく、おいしいと感じることができる食事をどうしたら提供できるかを、今後も考えていきたい。

《提案と発信》

口から食べることの大切さや難しさを改めて学ばせていただいた今回の取り組みの中で、やはり大きな危険性もあることを目の当たりにした。このまま、口から食べてもらいたくても機能的に困難になっている、胃ろうという選択を余儀なくされる方も少なくない現実がある。特養で出来る限り生活を継続させていくには、施設内でも家庭で、家族が行える医療行為は認める方向で検証をしていてもらいたい。

【メモ欄】 追加資料 無